

## オーディオ実験室収載

### モーツアルト盤を聴く(23)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(23)—

#### 1. 始めに

前報(22)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と Garrad401 を使用します。Garrad401 は、Garrad401 の再構成(17)で報告のとおり、下記の再生経路となっています。

Garrad401→My Sonic Stage 1030→Maraz7 タイププリ→TruPhase

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。また、Garrad401、My Sonic Stage 1030、Maraz7 タイププリには、別系統で Crystal E を接続しています。音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は、アンサンブルとオペラの序曲です。

CBS SONY SONC 10257

モーツアルト アイネクライネナハトムジーク

「劇場支配人」序曲

「コシファントツテ」序曲

「フィガロの結婚」序曲

「魔笛」序曲

フリーメイソンのための葬送音楽

ブルーノ・ワルター指揮コロンビア交響楽団

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

CBS SONY 盤ということで、LINN LP-12 では、Columbia、逆相、第4時定数 Low で聴いていきます。

LINN LP-12 の再生では、いかにもワルター指揮コロンビア交響楽団らしい、流麗で緻密な音です。オペラの序曲は、いずれもフルオーケストラのスケール感でこれから始まるドラマティックなストーリーへのわくわくするような期待を抱かせるも

のです。

Garrad401の再生では、基本的には、ワルターらしい音づくりの優雅さとドラマティックな演奏ですが、LINN LP-12より、緻密さに劣るところがあります。

### 3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal Eの導入などの総合的な効果として、いかにもワルター指揮コロンビア交響楽団らしい緻密な音ですが、LINN LP-12とGarrad401の違いも聴き取れます。

以上